



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 176 Jan. 1. 2024

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



南信州秋葉街道の踏査

左上：信州側から仰いだ青崩峠

右下：遠州側の石畳の秋葉街道

右上：峠の観音様

詳細は本文 P8 参照

目次

○年頭のご挨拶	高橋玲司	2	○山書蒐集夜話 その7	安藤忠夫	15
○全国ユースクラブの 集い開催	今津英一朗	3	○朝明ミーティング開催報告	金谷正起	18
○ゴザフェス2023開催	今津英一朗	4	○東海支部蔵書からの一冊38	石田文男	19
○体調管理法講習会	清水克宏	4	○委員会報告 山行/写真展実行		21
○ボランティア委員会			○登山用具あれこれ⑩	千葉泰丈	23
秋の四大行事	前田隆久	7	○支部友コーナー	田中 進	24
○山岳古道調査活動報告(5)	西山秀夫	8	○同好会コーナー スケッチ		25
○猿投の森夢ファーム	和田豊司	12	○会務報告	今津英一朗	26
○自然保護委員会秋の活動	石原俊洋	13	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗	30
○トピックス		14	○INFORMATION	星 一男	31
			○編集後記		

年 頭 の ご 挨拶

支部長 高橋 玲司

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年毎回、コロナの自粛を記していましたが、晴れて活動の再開宣言であります。

昨年は、東海支部のあり方について議論した年でもあります。昨年の新年あいさつを読み返しますと支部の活性化再活動元年として、①多様性を持った活動の実践、②連携を持った活動の実践を志すとしました。多様性とは、さまざまな委員会活動をさらに活発化し、新たな取り組みも視野に入れた支部活動の活性化の試みです。個人指標としては、バリエーションクライミングの取り組み実践、SNSの情報発信、トレラン志向者の集まりの検討としました。これまでは画餅で、実践の検証が不十分でありましたが、昨年は狙ったとおりの取り組みが実施できました。

ご存じの通りバリエーションクライミングの実戦部隊としてアルパインクラブを入会のハードルを上げて設立したところ、学生から60代まで老若男女の志のある方30名近くが集まりました。残雪期の剣岳山群に始まり、沢登り、八ヶ岳大同心、小同心、ジャンダルム飛騨尾根、滝谷、前穂4峰正面壁、北岳バットレス等にトレースできました。まだまだ実力不足が否めませんが、クラブの実力不足という事も認識され活動が盛んになっています。

SNSにつきましても、Instagramを中心にフォロワーも800を超えこちらも活動が周知され成果が上がっております。トレラン志向者の集まりも12月3日に金華山で試みましたが、こちらも12名の参加者で大成功。私がやってみたい事として行った3つの取り組みがあらたな多様性のある取り組みとして、可能性を感じたところです。

活性化として、連携を持った活動では、(委員会同士の交流、他支部交流)などがあると記しました。全国のユース交流会としてクライミングによる交流事業も行ってみました。広島、ゴザフェス、高木山でのユース交流会等です。まだまだクライミングの実力不足は否めませんが、どれも楽しい活動でありました。また、委員会同士の交流として山行委員、



支部友、トレッキング、アルパイン合同で金華山を登りトレランからリス村そして懇親会まで新しい楽しみ方として楽しみました。

活性化の為に、交流事業を活発に行い、各委員会が単体で事業を行うことなく、共催も多く行えば楽しくも充実した支部ライフが行えるものと考えています。今年も、新しい取り組みや連携を受け入れて、多様性のある取り組みを柔軟に数々の事業が飛躍する事を祈念し年頭のあいさつに代えさせていただきます。

今年も一年安全登山には留意し、楽しい登山活動を行いましょう。



カット絵 安藤忠夫

全国ユースクラブの集い開催

総務委員会委員長 今津 英一郎

全国ユースクラブの集いが以下のように開催された。

日時：2023年11月3(金)、4日(土)、5日(日)

場所：犬山桃太郎公園キャンプ場をベースに高木山、伊木山をクライミング。

参加者：東海支部(アルパインクラブ、東海学生山岳連盟など)、広島支部、本部ユースクラブ(59歳までの日本山岳会会員でどこの支部でも可)の30名以上参加。

11月3日 美濃太田駅にて電車です来る参加者をピックアップし、車で高木山の岩場へ。

10:30～15:30岩尾根エリアでショートルートのクライミング。

16:30桃太郎公園キャンプ場へ。

桃太郎公園キャンプ場では、定番の鍋料理に加え、差し入れによる絶品ポークステーキや、ご当地B級グルメ瀬戸焼きそばなどに舌鼓を打った。



プロガイドの山田利行さん・谷 剛士さんからクライミングの講習を受ける



桃太郎公園キャンプ場で焼き肉、鍋を囲んで懇親会

11月4日 5:30桃太郎公園キャンプ場発。

6:00高木山の岩場(駐車スペース)

「南稜10ピッチルート(5.9)」、北尾根右ルート(Ⅲ級/10P)、北尾根左ルート(Ⅲ級/8P)などに分かれて登攀。

全員下山後、桃太郎公園キャンプ場へ。

11月5日 7:30～伊木山の岩場などでショートルートのクライミング。

15時、美濃太田駅に出て、解散。

ゴザフェス 2023 開催

総務委員会委員長 今津 英一朗

御在所フェスティバル（ゴザフェス）が以下のように開催された。

日時：2023年9月23（土）、24日（日）

場所：御在所岳 藤内小屋 藤内壁

参加者：東海支部（アルパインクラブ、東海学生山岳連盟など）、広島支部、本部ユースクラブ 30名以上参加。

内容：①講習壁や一壁でプロガイドの山田利行さん・谷 剛士さんからクライミング講習。

②藤内小屋で鍋を囲んで懇親会！

③24日は、中道・国見尾根、前尾根など色々なコースから御在所岳山頂へ向けて一斉登山。御在所岳山頂に集合して親睦を図った。

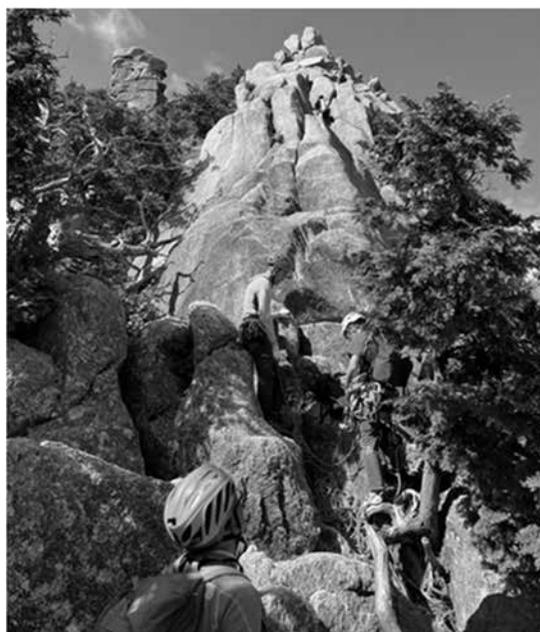
山頂では、小古真也さんによる普段持っている装備を使ったセルフレスキュー講座を開催。遭難救助に携わる現役警察官から貴重な話を聞くことができた。



御在所岳山頂にて集合



小古真也さんによるセルフレスキュー講座



クライミング講習

講習会「安全登山の基本—体調管理法を身につける」

技術向上委員会委員長 清水 克宏

新型コロナウイルスの感染症が、5月から5類に移行したこともあり、登山者が増加するとともに夏山期間（7月～8月）の遭難は、遭難者件数、遭難者数ともに過去最高となっている。その特徴として、被害程度の少ない“軽い遭難”の多いことがあり、「疲労・病気」による遭難が過去10年間で最大の比率となり、体調を自己管理できないことが、遭難の原因になっているケースが非常に多い傾向がみられる。

そこで、技術向上委員会では、11月19日（日）、支部ルームで「安全登山の基本—体調管理法を身につける」というテーマで、至学館大学栄養科学科教授で、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所創設者・日本登山医学会認定国際山岳医師でもある三浦裕委員を講師として、講習会を開催した。

体調が悪化する原因は、脱水症、熱射病、熱中症、低体温症など様々であるが、今回は受講

予定者の事前質問の集中した、「Ⅰ こむら返り（足が攣る）の予防法・対処法」「Ⅱ 体調を維持するサプリメント等の摂り方」を中心に説明いただいた。

まず、Ⅰこむら返りについては、その原因は、①筋肉の収縮を感知するセンサーの誤作動と、②電解質異常（ミネラルバランスの崩れ）によるものとのこと。

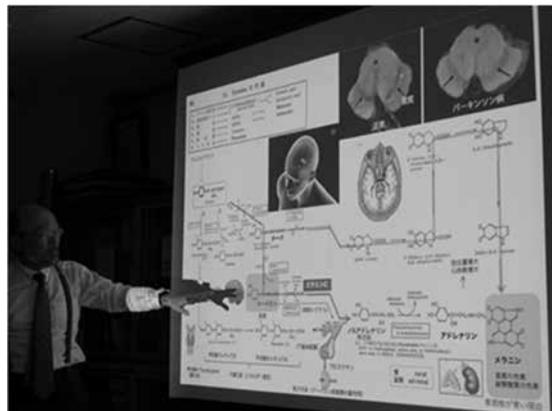
そのうち原因①については、人間は姿勢を保持するよう、ふくらはぎなどの筋肉の長さを一定に保つため、伸びすぎを防ぐ筋紡錘と、縮みすぎを防ぐ腱紡錘というセンサー機能でバランスを取っているが、低温などで腱紡錘の働きが低下すると、筋肉が異常に収縮し、痙攣することで、こむら返りが起きる。

そのため、こむら返りの応急手当として、筋肉の伸縮を感知するセンサーを刺激することが有効で、ゆっくり膝裏を伸ばす（息を吐きながらゆっくり足先を手前に引っ張り、ふくらはぎをのばしていく）方法が有効とのこと。また、予防法としては、センサーをあらかじめ刺激し、神経回路を活性化するストレッチ（アキレス腱伸ばし）が効果的と教えていただいた。

原因②の電解質異常（ナトリウムとカリウムのミネラルバランスの崩れ）は、水分不足・脱水、血流不足や冷え、筋肉疲労、筋肉量や代謝量の減少、薬の副作用、糖尿病や腎臓病など、などさまざまな理由によって生じるとのこと。筋肉量や代謝量の減少は運動不足と共に加齢にもよるため、年を取ると寝ているだけでこむら返りが起こるのも、そのような理由と分かった。

登山前の対策としては、登山前にしっかり水分を取っておくこと、体が温まる前にピッチを上げ過ぎないこと、低カリウム血症は筋肉の異常収縮を引き起こす原因となるので、バナナチップなどカリウムの豊富な食物を摂るのが有効と教えていただいた。また、こむら返りに効くとされている漢方薬の芍薬甘草湯は、筋肉収縮を抑制する成分が含まれるものの、同時に低カリウム血症も生じさせるため、常用するようなことはお勧めしないとのこと。②のお話は、こむら返りだけでなく、体調管理全般に繋がる話で、大変参考になった。

次に、Ⅱサプリメントの取り方については、ドーパミンからノルアドレナリンを作る際に



使われるビタミンCの摂取が特に重要で、その他、ビタミンCは、脳内物質を合成したり、ストレスに対抗したりするためのホルモンの生成に必要なため、積極的に摂取することが、登山の体調を整えるだけでなく、老化防止、ストレス抑止にも有効と教えていただいた。登山というとアミノ酸もなじみがあるが、アミノ酸は食物から摂ればよく、ビタミンCはアミノ酸から怪我などで壊れた細胞を修復するコラーゲンを作る時に役立つが、ビタミンCは、人間は体内で生成できないため摂取が必須で、欠乏すると怪我が治りにくくなるのお話だった。特に、登山やマラソンなど持久運動では筋肉組織に小さな損傷が蓄積するので、コラーゲンが必須となるため、ビタミンCの摂取は重要とのこと。

専門的なお話も多かったが、体調管理に関する事前の対策、歩き方、応急対策などを理論の裏付けをもって知ることができ、大変有意義だった。支部のホームページにも「安全登山教室」のシリーズとして掲載予定のため、参考にしていただきたい。

図書紹介

木下喜代男著

『消えゆく

飛驒の峠道』

（岐阜新聞社発行）

著者木下喜代男氏は、1965年に飛驒山岳会に入会されて以来、飛驒山脈を中心に活動され、1969年1月の錫杖岳前衛フェ



ース1ルンゼ冬季初登攀など、錫杖岳、笠ヶ岳の岩場で初登攀の輝かしい記録を数々残された飛騨山岳界きっての岳人で、飛騨山岳会の会長や、岐阜県山岳連盟会長などを歴任されている。そして2021年には、長年沢登りに、山岳スキーに、歴史探訪にと乗鞍岳に通い詰められた集大成というべき『飛騨の乗鞍岳』（岐阜新聞社発行）を上梓されている。私ごとになるが、拙著『岐阜百秀山』をまとめるにあたって、近代登山史のメインステージを含む飛騨の山岳の部分は生半可に書けるものではなかったため、同氏にご査読いただき、また飛騨山岳秘史など多くの知見を賜った。その木下氏が、このたび『消えゆく飛騨の峠道』を刊行されたので、ご紹介したい。

木下氏は「まえがき」で、「『山の国』飛騨は『峠の国』でもある。他国へ行くためだけではなく、飛騨国内の移動でも山を越えなければならず、昔から多くの峠があった。他国と結ぶ人と物の流通路として、日常では杣（そま）仕事や炭焼き、漁など生活の道として、多くの人や牛馬が行き交った。近代以降主なものはそのまま自動車道になったが、そのほかは長年の役目を終えて草に埋もれ、山に還ろうとしている。そして今や人々の記憶からも消えようとしている。そんな文化遺産である峠道がいとおしくて、15年ほど前から地図を片手にヤブをこいで探査を行ってきた。おそらく最後の旅人として。」と記される。

そして本書には、郡上街道の峠、江戸街道の峠、高山市丹生川町の峠、高山市国府町の峠、山之村（飛騨市神岡町）の峠、飛騨市神岡町の峠、高山市上宝町蔵柱の峠、飛騨山脈を越える峠、その他高山市の峠、下呂市の峠、旧東山道飛騨支路にある峠と、多様な峠の探査記録が収録されている。そこには、飛騨国から他国へ越えていく国境の峠もあれば、集落と集落を結ぶ生活の峠もある。飛騨の歴史に詳しい木下氏ならではの峠の由緒などの説明と、それに続けて実際の探査記録が記される。2万5千分の1地形図からも消え去った廃道になって久しいルートも多く、ルート特定やヤブに埋もれた道探査に苦勞され、中には一度ではたどり着けない峠も、執念で確認されている。それは、奥美濃のヤブ山登山にも通じる、踏み跡すら自然の中に消えようとしているがゆえに、懐かしさもひと

しおという二律背反の心に誘われるようなチャレンジだったのではないだろうか。

さらに、峠への道すがら出会った人々との会話が、方言も交えて丁寧に記される。それは、フィールドワークというより四方山話といった風情なのだが、そのようなアプローチが、かえって峠の過去・現在を浮かび上がらせている。そのような会話も、木下氏の蘊蓄の深さとお人柄があって成り立つものだったろう。

焼岳をまたぐ中尾峠や、武田信玄の軍が攻め入り、ウエストーンが3度越えた古安房峠など、岳人であれば訪れてみたい峠もあれば、飛騨人（ひだびと）でなければ地理感がつかめないような峠もある。かえってそのような寡黙な峠こそが飛騨人の心には響くのではないだろうか。しかし、土地勘も働かない他国者であっても、あの峠、この峠と読み進めていくうち、いつしか自然と共に生きてきた日本人の原像が目の前に浮かび上がってくる。それは、木下氏の味わい深い文章の力によることはもちろんだが、飛騨という土地とその山岳に対する氏の深い愛情、失われつつある峠を悼む想いがあってのものだろう。

日本山岳会では、創立120周年記念事業として全国山岳古道調査という一大プロジェクトが進められている。その調査は、各支部の取り組み方針や、調査者の各々の関心によって、さまざまなアプローチで展開しつつあるのだろうが、本書はその取り組みを深化させるヒントにもなるのではないだろうか。

なお、木下氏は2007年9月、チベットのモンタ・カンリ峰(6,425m)を初登頂されているが、巻末には、その偵察時に立たれたモンタ・ラ(峠)(5,388m)の様子も加えられている。日本とチベットの風土の違いが象徴的に表れ、興味深かった。



カット絵 安藤忠夫

4年ぶりに、秋の委員会四大行事の実施

ボランティア委員会委員長 前田 隆久

2023年秋、委員会にとっては充実したシーズンだった。

コロナ禍で2019年秋のブラインド登山を最後に、「ブラインド登山」、SON 愛知との「山岳会と一緒に登山」、自由ヶ丘幼稚園との「親と子のふれあい登山教室」、家裁との「タンポポ登山・身柄付き補導委託登山」の四大行事は全て中止、少人数での支部員視覚障がい者とのひまわり登山のみを、年4、5回行ってきた。

四大行事が復活したのは、「ブラインド登山」が2021年秋、「山岳会と一緒に登山」と「タンポポ登山」が2022年春、「親と子の登山教室」は4年ぶりの開催となった。今秋は天候にも恵まれ、全ての行事が揃って、無事開催された。

10月、11月に行われた4つの委員会行事をまとめて紹介する。

①タンポポ登山・身柄付き補導委託登山

10月20日(金)、試験観察中の少年2名とその親、家裁調査官3名、少年友の会3名、東海支部員6名で、名古屋家庭裁判所に集合した後、車で移動、猿投山に登った。今回、少年たちの親も初参加。少年たちの楽しそうな姿が、印象的だった。

②SON愛知「山岳会と一緒に登山」

10月29日(日)、コロナの関係で、公共交通機関を使っての登山に切り替えて3年目となり、今回は、JR二川駅に集合して座談山への往復コースで登った。アスリート(知的障がい者)4名、SON愛知関係者3名、東海支部員12名が参加。晴天で、南に太平洋、北に豊橋の街並みを望みながらの、快適な稜線歩きを楽しんだ。参加アスリートも、年々、高齢化しているのが、今後の課題である。

③親と子のふれあい登山教室

3つの幼稚園と行うため、1回目は、11月4日(土)、第二、第三自由ヶ丘幼稚園の園児とその親27組54名、幼稚園職員7名、東海支部員



10名で、2回目は、11月11日(土)、第一自由ヶ丘幼稚園の園児とその親18組36名、幼稚園職員4名、東海支部員12名で、恒例の鈴鹿・尾高山に登った。危険箇所には、ロープを渡したり、メンバーを配置したりして、事故もなく無事開催出来た。

④秋のブラインド登山

11月5日(日)、ブラインド登山者10名、東海支部員24名(ブラインド登山者と一部重複)、一般支援者1名で、富幕山に登った。愛知と静岡の県境をなす山で、山頂公園からは素晴らしい展望が広がり、眼下には浜松市から浜名湖の複雑な入江、その先には遠州灘が光る。下山で、一部急なところがあり手こずったが、その他は、穏やかな道の登山であった。

コロナ禍もあり、委員会メンバーと支援者の顔ぶれも変わり、初参加の方も多かった今シーズンだったが、初参加の方に感想を求めると、多くの方から「楽しかった」「優しさを感じる登山だった」と、返ってきた。

ボランティア委員会として、一番嬉しい言葉だ。委員会が目指してきたものは、老若男女、障がいのある人も、ない人も、全ての参加者が楽しく、全ての参加者に優しさを感じてもらえる山登りである。障がい者も、少年も、園児も、支援者も、参加してくださった人たちの明るい笑顔が、ボランティア委員会を続けてきたモチベーションとなっている。

2024年もボランティア委員会の登山に、多くの人たちが参加して、一緒に楽しんでいただけることを望んでいます。

山岳古道調査委員会の報告(5)

支部古道調査委員長 西山 秀夫

①熊野古道大峰山脈の踏破全体集会

山岳古道事業を仕切る本部PTが熊野古道大峰山脈の踏破全体集会の計画のすり合わせをWEBミーティングですり合わせている最中である。(12/2時点)

②南信州秋葉街道の踏査

11月中旬に本部PT7名と西山が合同で南信州の秋葉街道を歩いた報告

③飯田街道(塩の道)の歴史

東海支部が手掛けてきた塩の道(飯田街道)の長野県根羽村、平谷村、阿智村の踏査の補遺がある。順次報告する。

①熊野古道大峰山脈の踏破全体集会

観光化しているとはいえ、世界遺産の熊野古道と奥がけ道(大峰山脈)を外すと画竜点睛を欠くということで事業完遂に向けて各支部で協力体制が形成されつつある。本号を手にする令和6年の「山」で全国の会員に通知がされるだろう。

②南信州秋葉街道の踏査

11/18(土)から11/19(日)にかけて東京本部PTのグループが北遠の遠州鉄道西鹿島駅に集合した。

名古屋の自宅を6時30分頃出発。新東名経由西鹿島駅へ8時50分頃着。102km。

9時過ぎ東京のPT7名と合流。青崩峠を目指しR152を北上。長野県境が近づくと今年5月に貫通が報じられた青崩トンネルの工事が真っ最中です。

峠直下まで車道はあるが足神社にP。そこから徒歩20分、車道の後、20分間石畳の遊歩道を歩く。1082mの峠では北からの季節風のために降雪があり、初冬の気候と冬黄葉の残る自然林がマッチして美しい。東京PT組は峠から信州側へ下山、車の通れないR152を歩いた。私は青崩れの地層が見える四阿で足神社へ戻るために別れた。

車に戻って赤石山脈の兵越え1150mを越えてR152に下った。下った辺りから先は青崩トンネルの工事でダンプが行きかうので一般車は立入禁止でしたが恐る恐る入っていくと東京組に出会えた。そこでピックアップし宿の

ある南信濃の中心地である和田へ向かった。途中でも南信濃八重河内の番所跡を見学したりして有意義なことでした。



宿はログハウス風のかぐら山荘。飲み代込みで10000円位。道の駅の温泉が壊れていたので平岡駅まで走って温泉に入湯できました。往復20km。

11月19日

山岳名著で名高い松濤明『風雪のビバーク』(ヤマケイ文庫)には春の遠山入りの名文がある。松濤明は飯田駅から重いザックを背負って残雪の輝く赤石岳に登った際の前山越えとして秋葉街道を歩いた。深田久弥も光岳の登山で往きは矢筈越え(現在は矢筈トンネルが開通)をケーブルで伊那山脈を越えて遠山谷に入った。下山には小川路峠を越えた。

遠山谷も昨夜は凍て雲が山にまとわりついて寒かったが朝から快晴でした。6時50分に和田の宿を出発。7時30分に清水地区にある秋葉街道登山口を出発。野生のシカの頭蓋骨が落ちていた。人工林の中の道は不明瞭でしばしばRFで渋滞気味になる。それでも石の地蔵が

あるのでかつての街道には違いない。一旦皆伐してしまうとイバラ、タラなどが繁茂し、



いわゆるヤブ道になる。植林すると日陰になって雑草は枯れてしまう。この間に人が歩かないと廃道になる。現在は森林は密植されており、間伐を待っている。道も廃道状態に近い。一旦は林道に上がって横切る。再び人工林の中を登るがやはり不明瞭である。最終的に林道に上がった。1062.8mの三等三角点上村の尾根の先に地蔵などが設置されている。昔は建物でもあった跡である。



ここから本格的な秋葉街道になった。15番の観音から始まる。しばらくは人工林だが疎林になっただけ、見通しが良く明るくなった。遠くに白い仙丈ヶ岳も見える。観音様の番号が増えることで着実に登っていく実感がある。雪も出てきた。29番を過ぎると山抜けの沢の渡渉が待っていた。かつては栈橋もあったが朽ちている。虎ロープも切れて巻いてあった。リーダーがロープを出して女性らを確保して渡渉した。三点支持の基本技術があれば怖くない。そこから地蔵がずらっと並んだところ

にきてすぐ先に茶屋址と熊の檻があった。地形図では急な尾根だが九十九折れで優しく登って行ける。

12時45分にうっすらと雪のある小川路峠に到着した。昼食後、体が冷えない内に1人で13時30分に来た道を引き返す。途中、4回足に痙攣が走った。都度68を飲んで対応した。下山後約2時間の15時25分に林道に着く。太陽は隣の山にかかってすぐに日没しそうだ。帰路は樹林帯は薄暗いので林道を歩き通した。約1時間でクルマのおいてある入口に着いた。

小川路峠は上久堅からは5回も往復しているが遠山谷側は初見でしたので満足できた。秋葉街道は南西面に付けられているので西日が当たり午後も明るい。林道に下りた地点で3時30分位でしたが日が伊那山脈に沈んだ。山の中は飯田市の日没4時40分よりも1時間以上早い。

残照があるので4時半までマイカーまでは明るくヘッドランプは点けずに済んだ。

マイカーで矢筈トンネルを通過、下氏乗から中宮でR256に合流、左折して富士山之神社（スマホのナビの目標）へ向かうと5時20分ちょうど東京組と合流できた。後は飯田駅へ送って別れた。名古屋から周回の距離は約380km位でした。山間ドライブは正味150km位。極端なタイトなカーブが多いので山よりもドライブに疲れた。3ヶ月のブランクがあったので足腰が久々に痛んだ。

※すでに完成している矢筈トンネルと青崩トンネルが高規格の道路に生まれ変わると鳳来峡ICにつながる。観光客も増えて秘境のイメージも無くなるかも知れません。

③飯田街道（塩の道）の歴史

故山中光子さんの『山岳』への寄稿では西尾市から塩尻市までのひたすら三河湾産の塩の道をたどった。その過程で得られる人文的な知識、例えば木地師などを盛り込みながらつづったから本部PTの関心を集めた。ただの物見遊山ではない点が全国的な山岳古道120本を集めて創立120周年記念事業にするという大胆な着想を得たのである。

山中さんの記録を読み直すともう少し深掘りしたい気になった。歴史の重層性という点で深掘りしてみた。取材はしたが寄稿文では取捨したのではないかと、塩の道研究会メン

バーでもある星編集長を通じて遺族に原稿ノートや資料が残っていないか聴いてもらったがすでに廃棄されたとのことであった。尾鷲道踏査が終わり報告も済んだので足助以降の塩の道を再踏査してみた。

本稿では治部坂峠周辺に絞ってお伝えしたい。山中さんの記述には平谷村の靱を出発してR153の橋を眺めなら云々と書いてある。ここに疑問があった。『平谷村誌』、『阿智村誌』などに当たって見た。以下は平谷村の略図である。実線が江戸時代からの旧塩の道である。



山中さんが歩いたのはカーブの多い旧国道である。この道は明治24年に旧塩の道の交通量の増加に応じて開削された。その後、国道に昇格し、戦後の石油輸入再開でトラック輸送に切り替わり、昭和48年頃山の辺をなぞるような現在のR153になった。実線を探すのに苦労した。



平谷村誌では清水沢に沿って塩の道があると書いてあった。別の項では峠川とある。清水沢は峠川の支流だった。鉄塔送電保守路に沿って旧道があったらしいが峠川沿いの林道が異様に広いので工事で消失したと考えている。また治部坂峠も峠川の源流だったが現在のスノーシェードのトンネル工事で10m掘り下げたので川底ごと消失したのである。

(浪合村史)



したがって旧国道以前のおそらく武田信玄らの一行が通ったであろう歴史の峠道は痕跡しか認められなかった。辛うじて植林を免れて痕跡はあった。平谷村や長野県も史跡指定



はされていない。どうかして保存するが良い。写真は平谷村誌に紹介されていた「中の土山」(村誌では中の山土になっている)の実物であるが位置が間違っていた。峠から1km程度なのでこれが本物である。

以下は昭和35年の五万図「中津川」の地形図である。明治44年が初版であるがほぼ同じである。印刷が分かりにくいので昭和35年版を用いた。この道が明治24年開削の塩の道で

ある。峠の標高も1197m。横岳の周囲は草の記号があり、秣（まぐさ）を生やしていたと想像した。写真は平谷村誌からコピーした。こんなスタイルで馬稼ぎしていた。

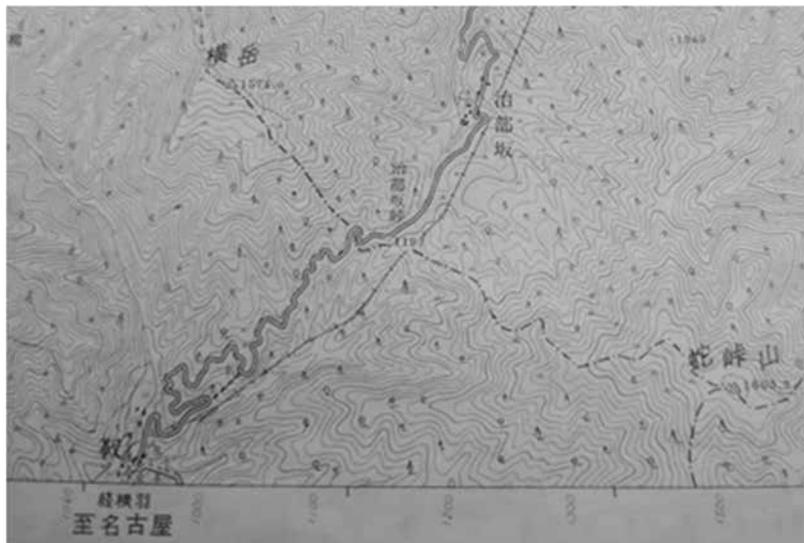
南信州の山岳古道はこんな風俗で歩かれたであろう。往きには塩を運び、帰りには木地師が作った木地製品が運ばれたらしい。

名古屋市の飯田街道の現状も探ってみた。飯田街道は実は名古屋市の久屋大通り辺りの旧駿河町（現在は東桜）から始まる。喫茶店コマダのすぐ近くに飯田街道始点の道標がある。

意外なことであった。さらにウォーキングで天白区の自宅から歩いてみた。すると八事から下ると川名公園がありこんな案内板を見たら信州から木地椀が運ばれてきた云々とあった。ここも昔は街だったのである。



↑ 飯田街道始点の道標
川名公園の看板→



昭和35年5万図「中津川」地形図



塩の道の往時の様子(平谷村誌より)

身近なところも歩いて見ればはるか信州の山奥に想いを致すのである。



夢ファーム

猿投の森づくりの会代表 和田 豊司

猿投の森づくりの会の道具置き場「やまじ小舎」の家主から舞い込んだうれしい一言、“空いている畑を良かったら使っていいよ！”。昨年2022年3月の事である。10年前我々が猿投の森の中の三叉にあった作業小屋が県により撤去を指示された時にはやまじ小舎の使用を受諾して頂いている。

さっそく有志で畑を見に行行って驚いた。15年ほど耕作を放棄したままになっており真ん中のわずかな所だけ親族が畑にしている。3反(約1,000坪)程の広い敷地である。南から半分ほど竹が侵入、畑一面にアカメガシワの木が繁茂。真竹、蔦が梅、柿、キーウイなどの果樹を上から覆っている。上空には高压線が通っている。さてどうしたものか、猿投の有志で話し合った。会員の中には退職後畑作りをしていて興味を持つ人も多い。「夢ファーム」と名付け開墾し、耕作しようということになった。里山と奥山(猿投の森)の有効利用である。

木の除伐は慣れていても木の根の除去は未経験、竹も切れるが根は取れない。開墾に苦勞していると、またもや家主が耕運機を使っていいよと無償提供してくれた。竹藪化した畑は開墾しても次から次へと筍が出てくる。竹の子、蔦、木の根っこ、草との闘いである。

幸い初年度にもかかわらずジャガイモ、里芋、さつまいもなどはたくさん収穫でき、森づくりの会の法人デーには芋ほりをしたり、



きれいに開墾された「夢ファーム」

さらに余った里芋は子ども食堂などに提供した。

2023年度にはジャガイモ、里芋、さつまいも、ヤーコン、とうもろこし、スイカ、カボチャ、冬瓜、落花生、ナスなどを植えている。果樹も梅、柿、キーウイ、キンカン、柚子が植わっており今年から剪定を行ったので収穫が期待できそうである。

夢ファームの運営は猿投の森づくりの会とは切り離れた別組織にしている。森づくりとは目的が少し異なる。猿投の森づくりの会の関係者(JAC会員であれば当然)であれば誰でも参加できるゆるい有志の会にしている。農作業を含めた自然を相手にすることに興味があればどなたでも参加可能(会費1,000円/年)。連絡はすべてメール(申し込みはtoyoji@kit.hi-ho.ne.jp)で行っている。



耕運機の力は大きい



竹の除去は困難



里芋



法人デーの芋掘り

自然保護委員会秋の活動報告

自然保護委員会委員長 石原 俊洋

自然保護委員長を仰せつかって

名古屋市の最高峰、東谷山（とうごくさん、198m）の山頂には神社があり、お社一帯は古墳時代前期の円墳で、国の史跡（国宝のような位置付け）「志段味古墳群」の一つです。

社の壁面には「カンや紙くず等で自然の美しさを汚さないよう - - 空カン等の不法投棄は処罰の対象」と看板が！ 家族連れの楽しい登山の末に、こんな無粋な警告文を見るのは、なんともガッカリ。ご縁あって、最近はこちらに週2～3回は登って辺りの古墳群を見回り、結構のゴミを拾います。

昔、北ア槍ヶ岳で山小屋のアルバイトをしていた学生当時に歩荷仕事で登山道を行き来するおり、タバコの吸い殻を沢山拾い集めたことを思い出します。山のゴミ問題は、登山がお手軽行楽の一つへと普及した裏側の結果とか。

せっせとピークハントに精を出した若者時代から、現在は、山歩きは大自然に触れる、地球46億年の時間を感じるなどのチャンスとの思いが強く、悪天候なら高度稼ぎは止めて自然観察などにいそしみます。昨年と一昨年の秋は北ア涸沢の紅葉見物を狙って上高地に陣取りましたが、ともに雨。カッパ姿の多くの登山者がどんどん登っていくのを見送りましたが、残念というより都会にはない空気の美味しさをゆっくり楽しみ、一帯が誕生した歴史などをビジターセンターなどで学びました。

さて、自然保護委員会には20人近い男女メンバーがいて、植物や花の専門家をはじめ趣味の岩石マニア、現職時代は水質検査のプロ、夜の山中なら星空巡りが出来る案内役とか、あるいは山岳会に入会後に森林インストラクターになったりとか、多彩（年齢は定年前後～70代）です。

長い活動歴の中、ホームグラウンドの猿投山では野生動物の定点カメラによる記録調査が連続と続き、2018年からは環境省による全国1000地点での継続調査（モニタリングサイト1000＝略称・モニセン）に協力。5年単位の調査は、23年から第2期に入って、引き続き取り組んでいます。



案内板と参加の自然保護委メンバー 2023年8月写す



水鏡も映える八島ヶ原湿原 長野県の霧ヶ峰高原で

八島ヶ原湿原観察会報告

23年8月25日は、名古屋から7人乗りの車で長野県霧ヶ峰にある八島ヶ原湿原（標高1600mほど）などを巡る山旅を実施。当初は7月に計画したものの、天気が悪く2度の順延を経て、またとない好天に恵まれました。3000ヘクタールという広大な明るい湿原では、あちこちの沼の水面に夏雲が映って、まさに水鏡です。

例年なら、この時期は秋となり山野草は終わりのはずが、高温続きが幸いしてトリカブト、オミナエシ、ヤナギラン、マツムシソウ、マルバハギなどが出迎えてくれました。珍しいヤマナシの大木も見学でき、植物の多様な姿には感動続きでした。帰路では、大地の恵みの天然温泉にもつかって、“自然学習”の醍醐味を味わいました。

9月には、猿投山の“秘境”を訪ねる源流部遡行を計画。おなじみの上山路（かみやまじ）川をさか登りながら、一枚岩の川床歩きや連続する小さな滝を越えていく結構スリリングなルートで、支部員皆さんにも参加いただけるイベントにもなっていました。荒天予想で中止としました。24年夏ごろに、再度計画しますので、ご興味ある方は、ぜひ参加ください。朝、出発してお昼には終点に到着し、お弁当を広げる予定です。

この冬は新年の計画づくりです。地元、愛知県内にも残る原生林訪問と山登りを兼ねるアイデアや、メジャーな山ながら行きにくい御岳山の北面や乗鞍岳の南面などでライチョウに出会う夢を叶える山行提案も。ワクワクする山歩きへと、案を実行へと練り上げます。

2月には、山中で真っ先に咲き出すマンサクの黄色い花にも注目しています。高校、大学生当時によく登った恵那山や尾根続きの富士見台付近では、たくさん見かけた記憶のマンサクですが、最近は何となく、あちこちで姿を消しているとの情報があります。

猿投山のマンサク情報募集中

一方、猿投山の赤猿峠付近には、大きなマンサクがあるとか。そんな“貴重品”になっているなら、当委員会で猿投山のマンサク・マップをつくるのも、後世に残る資料になるかもと、考えています。

そこで、この紙面をお借りして、猿投山付近のマンサクの所在地をご存知の方々にお願です。手書きの略図でいいので、お名前と連絡先電話も明記のうえ、目印などとともにマンサクの目撃地を書いて、支部ルームの自然保護委員会宛てに郵送なり、ルームの各委員会用の引き出しがありますので「自然保護委」トレーへ投函ください。お声での連絡なら、石原（携帯）090-3850-2886を呼んでください（会議中などで出れない場合も）。

こうした活動にご興味を抱かれたなら、毎月第2木曜の午後6時半からルームで例会を開いています。見学だけでもいいですし、お仲間になっていただき一緒に「登山+α」を楽しみませんか？

自然保護委員会委員長 石原 俊洋

TOPICS

萩原侑紀君 大喝采!!

今年の日本山岳会の年次晩餐会（12月2日 於京王プラザホテル）で一際目立ったのは、新入会員代表挨拶であった。挨拶したのは、萩原侑紀君（東海中学1年）である。同君は、今年10月東海支部員として入会したばかりのほやほやの新入会員。しかも、登録会員の最年少記録にもなる。

壇上に上がった20余名を代表しての挨拶は、山に興味を持った経緯、入会の動機、どんな登山家になりたいかを堂々と述べ、参加会員から喝采を博した。

この萩原君、山の知識は並大抵でなく敬嘆に値する。その知識は本からだが、何冊ぐらい読んだか聞いてみたら、判らないとの返事であった。つまり、判らないほど読んでいるということだ。新幹線を往復一緒した今津総務委員長などは、「俺など及びもつかん」と。



↑ 岡巨頭と萩原君（左、今井通子さん
右、橋本会長）

← 壇上での代表挨拶

末たのもしい新会員である。とは申せ中学生、通常の支部山行での他の支部員と一緒には無理があるので、当面、支部長が指導を引き受けることになった。（N. O.）

山書蒐集夜話（その7）

支部員 安藤 忠夫

山書の行方 — 仙台・山内ピッケルと交換

よくも悪くも蒐集した山書の行く末に、誰もが頭を痛めるものである。長年月かけて蒐めた山の本をおいそれとは手放したくない。が、残しておいても、あとに遺った家族にとってお荷物になるのは必定である。であれば、自分に覚えのあるうちに何とか処分をしておかなければ、と思うこのごろである。

かつて小林義正が『山と書物』の中で、「何人も永久に書物を私することは許されないのであるから、書物を敬い、永遠の生命を思うならば、世の人もまた蔵書の行方に一応の関心を払わずばなるまい」と記した。それが真理であろう。とは言っても、身分不相応にずいぶん無理をして蒐めた山書なのだから、手放したくないのも偽りないところ。心穏やかならず、行ったり来たり揺れ動いている。

そんな堂々巡りをしている最中、あるうことか、重複本の何冊かと仙台・山内(やまのうち)ピッケルとを交換することになった。数あるピッケルの中で、山内を所持したいという願望はあったが、これまで叶わなかったもの。それが奇しくも叶ってしまった。処が、ところがである。何となく落ち込む気分、複雑な心境に陥っている。長年連れ添ったわが山書の、人手に渡った彼ら彼女らが悲嘆にくれているように思えてならない。手塩にかけて育てた娘を嫁にやってしまった気分。入手したピッケルの微笑みを見るにつけ、想いは、複雑極まりないのである。

山書にもピッケルにも、もっと広く何物にも、命が宿っているような気がする。

2014年秋、京都のナカニシヤ出版の中西健夫社長をお訪ねした時（村中征也著『白く高き山々へ』の出版依頼）のことだった。用件を済ませて退席しかけると、「ちょっと見てほしいものがあります」と、奥の部屋から持ち出してこられたのが、ここに記す仙台・山内のピッケルだった。ウッドシャフトなのは当然のこと。「未使用です。知り合いの人から依頼されたのですが、どの程度の価値あるものでしょうか」と言われた。よほど大切に保管されていたようで、嚴重に包装されていた。



ウッドシャフト・ピッケル 山内
仙台山内東一作 一八六三の刻印

手にとってピック部を見てみると、確かに製作されて以来、一度も使用されていないことが判った。シャフトが幾分長いように感じられたが、それもかえって、クラシックさを醸し出している。ずっしりと重量感があって、いやが上にも歴史の重みを感じさせるもの。

咄嗟のこと、しかも、ピッケルに知識のない私である。「大変貴重なものだろうことは判りますが、価値のほどを計ることができません」「お宝にされて、山の本とともに社長室に飾っておかれてはどうですか」と、繕いの回答をするのが精一杯だった。

しかしながら、門外漢であっても山内のピッケルについては、過去に何度か入手の手立てを探ったことがある。製作されなくなってずいぶん時が過ぎていたこと、根気よく追わなかったこともあって、皆目近づくことができなかつた。精々、博物館や山岳記念館などで、著名な登山家の遺品としてお目にかかった程度。直に山内ピッケルそのものを手にしたことがない。そんな事もあって日が経つにつれて、次第しだいに興味がわいてきた。そして、ひょっとすると、あのピッケルに縁があるかも知れない、と考えるまでになっていた。

それから半月ほど経ったころ、思いもよらないことに、中西社長から提案があった。「あなたの蔵書目録を見ていると、限定本にかぎ

っても相当数の重複本があるように見受けられます。ピッケルにご関心あれば、私が重複本を譲り受けることで代価に充てられてはどうでしょう。リストを送り直して下さいませんか。値段については、しかるべき専門家に評価してもらおうようにしますが」というもの。

と云うのも先の訪問時に、求められるままに私の蔵書目録を渡しておいたこと。加えて、直後に発送した書状の末尾に、「今でもピッケルは、社長室の壁に掲げておかれるのが最良と思っていますが、もし他の人に譲られることになって、譲渡価が決まった時点で、そっと耳打ちしていただけないものでしょうか」と記して、野次馬根性を出したのが切っ掛けだった。物事は、どこでどう転がり出すか、予測のつかないもの。だから人生は愉しくもあるのだが。

ここで、重複本について触れるならば、長い間の蒐集過程で往々にして生ずるものである。極力二重購入を避けてはいるが、人の記憶というものはいい加減なもの。古書店巡りの途上で、目新しい本を見て、すでに蔵しているものかどうか、咄嗟には思い出せないことが多い。勿論、中には重複を承知で購入したり、さらに他から譲り受ける段になると重なることは避けられないのである。私の場合、そんな事から限定本ではまだ少ない方だが、普及本になると結構な割合で重なっていて、始めから目録に載せないでいたものもあって、実態のほどは判っていない。

せっかくのお誘いに乗らない手はないのである。先立つ資金はないが、この中西社長の提案ならば、ピッケル入手の可能性がでてきた。ここは一番、動いてみることにした。で、手短かに重複本のリストを作り、改めて発送しておいた。70冊余になった。ただ、ピッケルもさることながら、山書の限定本と云えども、日に日に実勢価格が動いている。地域性もある。その辺りをどう折り合ったらいいものか？ 互いに、この案に乗って良かったと思える事が大切で、どうあろうともどちらか一方に不満が残っては後味がわるい。で、世の動きに疎い私だから、ここは中西社長に一切をお任せすることにした。

それ以前のこと。にわかに関心が湧いてきたこともあって、ピッケルのおおよその譲渡価が知りたくなり、別途、知人に問い合わせることにした。「山ノ内、未使用のピッケ

ルは珍しいものだと思います。だいぶ前ですが、ヤフオクに90万円くらいで出品されましたが、さすがにこの値段では落札はありませんでした」と、回答が届けられた。無知は恐ろしいもの。私の予測では、門田で5万円程度、山内ならば10万円前後だろうと思っていたので、これを知って、膨らみかけていた期待が一気に萎んでしまっていた。

ピッケル入手の意志表示をした者は私を含めて3人だった。ある山小屋関係者と有名大学山岳部出身者である。“山の本のけっこうな蒐集家だ、(実体はさにあらず)”という触れ込みが功を奏し、ご遺族の了解が得られたらしい。で、ついに、私のもとに輿入れしてきた。中西社長のご尽力のおかげである。ちなみに、譲渡価は30万円。かわりに限定本24冊が嫁に行った。近年まれに見る高価な買い物となった。

思うに、中西社長は稀にみる世話好きのよう。ピッケルの譲渡価を問い合わせられた人は、日本山岳会会員の諏訪部 豊氏とのこと。以前、これも中西社長のお世話で、山内のピッケルNo.1号の所有を、好日山荘の大賀寿一氏から移した時の相手方である。そして、私が、ひそかに入手を望んでいることを知られるや、負担がかからないよう方策を考えられ、奮闘されるのだった。なお、諏訪部さんによると、入手したピッケルは、昭和27年～29年頃の山内晩年の作だろう、とのことらしい。ちなみに、ピッケルの元の持ち主は、大阪府羽曳野市の方のようだった。

これで手許に、我が国初期の代表的ピッケルと云われる、山内、門田、森谷の、三種のピッケルが集まったことになる。さらに他に、ウィリッシュや二村、JACモデル門田もある。総てウッドシャフト。やがていつの日か、これらのピッケルも再びどなたか別の人の手に渡って行くことになる。彼等の、永劫の桃源の地はどこにあるのだろうか？

物は異なるが、大阪市住吉区在住・吉田寛治さんの自慢だった、木暮理太郎著『山の憶ひ出』愛蔵本のアンカット本所蔵のこと、ご本人自慢の種だった。そしてその後、入手したままのアンカット状態で再び人手に渡っていった。私が手にした山内のピッケルも、それと同じことになるのは目に見えている。

ピッケルは所詮登攀用具である。雪山で使ってやることで本来の役割がまっとうできる

はず。道具は使われてこそ生きるのであって、その物のモノとしての使命を遂げさせてやるのが大切だろう、などということは十分に分かっている。同じように、限定本は、一般普及本とは違って、それ自体に価値あるもの。たとえ背文字を見せて書棚に飾られるだけでもかまわない。一個人が、その限定本を重複して所蔵することは、死蔵を意味している。求める人に手渡すことは、心ある蒐集人の要諦でもある。重複していたわが限定本が本来の居場所を得たことで満足することにしよう。が、わが手にある山内は、そうとはならないのが哀れである。

なのにこの先、決して使うことのないピッケルを購入するのは何故か？ と問われるならば、「山内の美学だ」と答えざるを得ない。まあ、そんなに肩肘をはらずとも、生前に授かった法名が「書忠院釋雪山」。やがて行かねばならない彼岸の地で、このピッケルにお世話になって、雪の山ならぬ針の山を登ることになるともかぎらないのだから。

(註1)ピッケルの作者・山内東一郎について。

青森県生まれの東一郎は仙台に出て、鍛冶職人となり、ピッケル、アイゼンの製作を始め、1890年から1966年の間、携わる。ピッケルはエルク、シェンクを模したと云われ、材質は炭素鋼から当時の特殊鋼へと移す。(完)

支部刊行物編纂委員会からのお知らせ

60周年記念事業として「東海山岳12号」を発行いたしました。残部があります。

購入を希望される方は、支部刊行物編纂委員会の委員に申し込みをお願いします。

メール等でのお問い合わせは

khoshi@katch.ne.jp 星 一男までご連絡ください。



東海山岳 No10, No11

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL : <http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico02/index.php/content0004.html>



支部からのお知らせです。



第 60 回支部友・朝明ミーティング

支部友委員会委員長 金谷 正起

第60回朝明ミーティングが朝明茶屋をベースに10月14日(土)、15日(日)に開催された。

14日(土) 分散登山

登山学校は指導員8名と支部友会員15名が3チームに分かれ、学校に所属しない14名の支部友会員は委員8名と4チームに分かれて登山。

第1パーティ (5名) 御在所岳(1,212m)

第2パーティ (4名) 鈴鹿の上高地

第3パーティ (7名) 水晶岳 (954m)

第4パーティ (6名) ハライド・ブナ清水

キャンプファイヤー17:00～

皆さん分散登山を終え4時には全員揃い夕食の準備を始めた所で、夕方雨の予報でキャンプファイヤーを先に開催しました。今年も新人会の皆さんが鈴鹿の山から下りて来た「山の神」から火を受け継ぎ焚火に点火して始まりました。

予報通り雨が降り出し大屋根の下のバーベキュー会場に早々に移動しました。

夕食 (BBQ) 17:30 ～

参加者55名の食材は田中、中島、今津の車3台で食事班9人によって運ばれて来ました。前菜はサラダバーと枝豆お酒のつまみを用意、BBQは豚ネギ串、鶏モモ串、ソーセージ 牛肉エビ イカ 野菜 <キーマカレー>も大好評な料理。金谷委員長の乾杯の音頭でBBQ大会が始まりました。



大いに食べて飲んでバイオリン勅使河原、ギター田中の伴奏で山の歌、楽しいジャンケンゲームで大いに盛り上がり21時に終了しました。

15日 (日)

座学 7:45～ 「我が登山人生」

講師：高橋 玲司支部長

自身の登山人生と東海支部活動のお話しをされました。

座学 8:00～9:30

「リーダーシップとメンバーシップ」

講師：尾上 昇氏

理想のリーダー像とは・・・リーダーは必ず一人ではなくてはならない。但しサブリーダーをあらかじめ決めておく、リーダーが能力不能に陥ったら誰が指揮を取るのか・・・



ファーストエイド講習 10:00～11:00

登山中での、骨折・怪我・虫刺されなどに対する対処方・応急処置等実践を通して体験・見学して頂きました。

講師：菟野消防署員、四日市西警察署員2名



12:00～14:50 演習「一般登山道で役立つロープワーク」

ガレ場やザレ場、ちょっとした岩場、急なガケなどで補助ロープが欲しい時のセルフビ

レイの方法や危険地帯をロープを使って安全に通過する方法を演習。

参加者12名

講師：榊 将美 助手：池戸 美恵 久野 輝美

12：00～14：00 演習「ツェルトの張り方」

ツェルト利用時は単に被るだけではなく張ることの意味を説明した後に張り方を、ストック、細引きを使用して（4～5m 2本）実際に張っていただきました。

参加者8名

講師：高松 信治 助手：中島 美枝



東海支部の蔵書からの一冊 38

図書委員長 石田 文男

『底本 笈ヶ岳に行く』 安藤忠夫著

編集後記に「五箇山の奥、富山・石川・岐阜の三県境に位置する笈ヶ岳は、わたしにとって、今も見果てぬ夢の中にある。遥かなる憧憬の山であることに変わりはない。

・初めて笈ヶ岳の山頂に立ったのは1986年5月11日、最後が2004年5月1日だから足かけ19年にわたってこの山に関わってきた・・・」。とある。続いて「笈ヶ岳には明瞭な登山道がないということ。・・・だから必然的にヤブ山登山となってしまう、積雪期（残雪期）が有利なこと。・・・白川郷・・・といった我が国有数の豪雪地帯の真っただ中にある・・・辺境極まりない所に位置し、一筋縄では山頂に立てないと云うところが、言い知れない魅力だった。現在とは違って当時であっては、一般的にこの山の情報は少なく、限られた登山者だけの頂だった。・・・」

これは4章6項の、〈思い出の笈ヶ岳〉の一部だが、先の一文と合わせ読むと本峰四周にルートを探求し足繁く通いのめり込んでいった著者が見えてくる。是非ともこの一項〈思い出の笈ヶ岳〉は読み通したいものだ。

本書は、「署名を『底本笈ヶ岳に行く』と銘うったが、・・・3回に分けて発表したままの形で羅列した・・・。ほかに笈ヶ岳に関わるもので、折々に記したものや描いてきた画、挿画を集めてみた・・・。」ものだが、全編、どの項にも著者の山への、笈ヶ岳への想いが轟めき、滲み出てくる。

※

ここにある登頂のうち、わたしも4ルートに同



行し、ともに山頂に立てたものだ。

今のところ、私はこの山を11回めざして山頂へは7度達することができている。

<円弧を描いて空に突き上げている白い尾根にピッケルを振るう登行。

碧い空をどこまでも画している真っ白い四囲の山なみ。

指さしながら、あの山が白山、こちらが人形山・・・

いつ見ても果てしなく、いつまでも飽きない、この至福のひとつとき・・・。>

すくすくと土筆が伸びたち、カタクリの花が所狭しと咲き誇る加須良川畔の集落跡の一角にテントを張り、明日の登頂に杯を傾けたこと。まだ薄暗いおのえ峠を飛驒の国から越中の国へと越え、腰まで浸かる桂川の渡渉、荒寥とした桂集落の跡地と桂川の速い流れ、大笠山からは背丈を超える激藪混じりの視界の無い雪稜を辿る。ぼんやりとした視界の中、

初めての笈ヶ岳、仙人窟岳を踏み、激しい藪の尾根の残雪を拾いながらの下り。真っ暗な中、9時を過ぎたテントへの帰着、15時間を超える行動の1日だったが、満ち足りた1日でもあった。

翌日、碧い空のもと、重い荷を担いで加須良川のせせらぎとともに帰路、時どき振り返り見る白い山波に、陽光とMozartのピアノコンチェルトが翹っていた。

この書を手にするたび、こんな想いが昨日のようである。

※

巻頭言の次頁からは著者の肉筆画挿入が16頁・62点にわたっている。

目次を見る。

第一章【笈ヶ岳に行く - 笈ヶ岳研究のころみ -】：〈旧越中桂からフカバラの尾根ルート〉、〈笈ヶ岳関係掲載図書抄録〉など10項目。

第二章【続笈ヶ岳に行く】：〈水晶谷から千丈平ルート〉など9項目。

第三章【続々笈ヶ岳に行く】：〈雄谷中宮発電所取水口から山毛櫛尾山の上部1271mピークルート〉など2項目

第四章【笈ヶ岳ふたたび】：〈笈ヶ岳への径〉など6項目。【閑話】：〈人形山〉、〈ある秋の日の敗退。【編集後記】。

ここで特に推奨したいのが一、二章の「笈ヶ岳関係掲載図書抄録」だ。一章の『岐阜百山』、『越中百山』、『県境踏破250⁺』など18書（以上、日本山岳会東海支部編『東海山岳7掲載』所蔵）と、二章の『福井の雪山』、『とやま県境踏破』など12書で、白山北方の日本海に扇形に広がっていく山々を知ることができるものばかりだからだ。

※

「これもまた、ルートを変え、季節を替えて、幾度となく入り込んでいった。だが、この笈ヶ岳に対するわたしの想いは、今もって本当のところはよく判らないでいる。・・・かつて夢中になっていたころのこと、笈ヶ岳登山に全霊を傾けていたころのことを思うと、切なく甘酸っぱい気分になってしまう。本書からそんな一端を見出していただければ幸いである。

笈ヶ岳は、きょうも白山の北のはざまで、

ひっそりと、それでいて燦然と、光輝いているはずである」。こう巻頭言で吐露されている。

※

『山がたり本がたり』 安藤忠夫著

「いつしか積雪期の南・北・中央アルプスの主だった山に、単独で山頂に立つことを目標とするように……。ようやく自身の山人生を見つめ直せるようになり、……。いくつかの山の会の一員となった。

山の本との出会いは登山ルートを調べる事に始まる。・・・山行報告、紀行、エッセイ、写真集、画文集などへと間口が広がって、・・・山と本との長年にわたる関わりの中に、努めて記したわけでもないのに綴った草稿が多量に……。身辺整理のつもりで冊子にしておくことを思い立ち、纏めてみて改めて気づいたことがある。わたしは長い間、自身の力だけを頼りとして山に登ってきたつもりだった。ところが、じつは多くの方々の、山の仲間のご支援があったからこそ実現した登山だったということである。〈あとがきにかえて〉の一文だが、それまでの著者のあゆみの概ねが、この450頁に述べられていて、興味深い。

※

因みに、東海支部員である著者には数えきれないほどの編著書がある。自著20を超え、遺稿集などの編著書、東海支部に関わるガイドブック系の共著、東海山岳編集など、そのバイタリティーには、ただただ驚くばかりだ。

それに、著者は日本有数の山岳書の蒐集家でもある。奇観本・特装本など普段、目にすることも手にすることも容易くないものがズラリ。いつもそれを拝見するときは、ただ身が引き締まる思いだけだ。

『底本 笈ヶ岳に行く』

- ・禁帯本
- ・A5判 140頁 発行：2015年12月1日
- ・発行所：製本工房「梓」

『山がたり本がたり』

- ・禁帯本
- ・A5判456頁 ・発行：2003年3月16日
- ・発行所：(有)マック出版

委員会報告

山行委員会だより

●支部山行リーダーを担当して

今年度から支部山行リーダーを務めることとなりました。初めて出した計画は比良山地の蓬萊山でしたが、午後からの雨天予報を懸念して残念ながら中止といたしました。もちろん中止判断をしたのは自分自身ですが、数日前から「決行する」か「中止する」か天気予報とにらめっこで、リーダーとして判断することの難しさを痛感いたしました。



そして、次に計画した5月の笠置山はのんびりと登れる山でしたので、参加者の方々にも食材準備等の協力をお願いして、昼食にちよつとした山飯作りを取り入れた山行計画を立ててみました。山行

当日は登山日和。お目当てだった満開のヒトツバタゴを愛で、東屋では作った山飯を一緒に食し、時折見える遠くの山並みを楽しみながら下山。支部山行リーダーとしての初山行を無事に終えることができました。

私自身、リーダーとしてはまだまだ経験も浅く未熟者ではありますが、学びを怠ることなく成長できればと思います。そして、山行委員の一員として、微力ではありますがお役に立てるような活動をしていきたいと思ひます。

(豊田 由香)

●『夜叉ヶ池・夜叉丸山行』に参加して

支部山行は様々な山の楽しみ方を教えてもらえるのでこれまでに幾度も参加してきました。今回は、自分達だけで踏み込むには少し躊躇する奥深い福井・岐阜県境の「夜叉ヶ池・夜



叉丸」です。この山はブナの紅葉と展望が楽しめるとの事です。

現地までのアプローチは長いですが、道中の景色を楽しみ、途中では夜叉姫の祀られる龍神社に立ち寄り登山の安全をお願いしました。

登山口の駐車場は既に数十台の車があり、人気の山のような様子。まわりは広葉樹の自然林で見渡す限りの紅葉はまさしく錦繡の装い、見事な紅葉に気を取られながらもポイント確認を行ないつつ、緩やかに上る山裾をたどりました。

夜叉岩が近づくと岩の登山道になり、景色を楽しむ余裕もなく、紅葉に縁どられた夜叉ヶ池を横目に、そしてその先にも岩場が続く夜叉丸を目指しました。片側が切れ落ちた岩場では高度感に緊張しながら慎重に乗り越え、背丈以上の笹をかき分け顔を出した先に控えめな夜叉丸の表示を見た時には歓声をあげました。

昇りくるガスと競争で山座同定を行い、慎重に元来た道を下り、夜叉ヶ池で休息。山友手作りの栗きんとんをいただき、日に透ける紅葉に気を取られながらのひと時を楽しみました。

下山後にはコンパス活用の再指導も受けました。紅葉とスリルの岩場歩きと少しの藪漕ぎは、充実感満載の山行となりました。

秋色きらめくこの季節の山行を企画されたリーダーと同行の山友に感謝します。

(杉山 史)

【写真展実行委員会】

写真山行（清滝山）の報告

伊吹山の南にあり、旧中山道南西に位置する独立峰で別名松明山とも呼ばれ、標高 439m の頂上からは素晴らしい眺望が楽しめます。登山口にある徳厳院境内の紅葉や旧中山道街道の風景も合わせて写真山行を楽しんできました。

参加者：岩月、蟹井、熊谷、椿、蜂矢 …5 名

日 時：11 月 23 日（木）祝日 晴れ

場 所：滋賀県 清滝山周辺

行 程：J R 名古屋駅→柏原駅→徳厳院→清滝神社登山口→南尾根出会→清滝山山頂→東登山口→参道出会→北畠具行墓→旧中山道→柏原駅 →名古屋駅



J R 名古屋駅を 9 時 31 分発快速米原行に乗って柏原駅へ。満席に近い乗車率だったけど柏原駅で降りたのは私達以外に 2 人だけでした。駅北にある盛菩提院に寄ってから徳厳院に向かいました。三重塔は改修工事中でしたが、周囲の紅葉を撮影してから清滝山登山口へ。ここから調子口と言われる尾根筋まで一気に急登です。登ること約 50 分で標高 439m 清滝山山頂です。

NHK 中継所がある山頂からは北に伊吹山、南に霊仙山を東遠方には大垣の市街地を望めました。東登山口へ下山後は北畠具行墓を巡り旧中山道を通って柏原駅に戻りました。



徳厳院の紅葉



清滝山山頂から貨物列車を見下ろす



徳厳院から清滝山を仰ぐ



鉄撮りのメッカ、伊吹山と列車



下山後、清滝溜池から清滝山を望む
写真展実行委員会委員長 岩月 邦文

トレッキングポールについて

装備委員会委員長 千葉 泰文

今、登山の道具としてトレッキングポールを使うのは一般的になったといえるでしょう。斜面の移動でバランスを保ったり、足の筋力をサポートするなど効果があるので体力や筋力の消耗を減らしてくれるありがたい道具です。自分にとっても若い時に比べて体力の衰えを感じるようになってから特に重要度が増し、山に行くときは手放すことが出来ない山道具と感じます。

トレッキングポールは、私の若い頃はストックと呼ばれていて、持っているとなんか年より臭い、などの抵抗が有ってできれば使いたくないなと思っていたものでした。1990年代になり100名山ブームの頃中高年登山者が増え、そして商品としてレキ社からバネのクッションが内蔵されたモデルが発売されたところから爆発的に使用者が増えました。しかも、一本だけしか持つのではなく両手に持つのがより楽だという認識が当たり前になると、2000年代頃から山ガールブームが始まり、彼女らの好んだスタイルの定番となったことも追い打ちを掛けました。そんなこともあってそれが現在に至り、トレッキングポールを両手に持って登山するスタイルは当たり前になりました。

トレッキングポールの使用者が増えるとトレッキングポールのトラブルも比例するように増えていきました。最初の頃はシャフトとシャフトの固定力が甘くて力を掛けると長さが短くなるが多かったのです。逆に縮まり過ぎて、収納するために短くしたいのに堅く縮まり過ぎてシャフトが回らなくなって収納が出来なくなったというのも多くありました。それから雨の日に使った後そのまま収納して放置したためにシャフトの中でアルミが錆びて、使うときに引き出すことが出来なくなったというトラブルも多くあったのではないのでしょうか。そんなトラブルも、2000年代後半にシャフトの外に付いたレバーで固定するタイプの商品が登場してからはトラブルの頻度がだいぶ減りました。今はさらに軽量化を求めて、3つに折りたたんで収納するタイプが登場しています。

今、私が愛用しているトレッキングポールは



中央にある黄色い短いシャフトを下にずらして一本の長いシャフトにして使用します。長さは調節できません。

グリップは長く設定されていて、どの部分を握るかによって最適な長さをその都度変えていきます。

シンプルな機構のためとても軽いのが魅力です。

長さを調整する機構が省かれていて、シャフトを2つに半分に折って収納するだけ。そして手を握るグリップの部分が35cm位で、長めに設定されていて状況に応じて握る位置を変えることで長さ調整をするだけです。ですから部品点数が少なく、その分トラブルが少なくなり、より軽量化が図られて、値段も高く有りません。収納した長さは、3段つなぎの一般的なタイプのものと同じくくらいの60数センチくらいで、短くはありませんが長すぎて困ったという事はありません。私にとっては、ベストチョイスです。ただ一般的に支持されているという事もないようで、商品として広まっていることも無いようです。ちょっとマニアックなトレッキングポールだともいえるかもしれません。

登山の経験が比較的少ない初心者の方と一緒に山に行くと、せっかくトレッキングポールを持っていてもどのように突いたら良いのか分からないためか、手に持って歩いているだけと言っても良い状態の方が多いのです。要するにトレッキングポールを地面について歩いていないといえるのです。地面についている時間がより長い突き方が良い突き方と言えます。そのためにはできるだけ前の方について歩いてトレッキングポールが自分の横に着たら突きなおすというイメージです。それをリズムカルに繰り返ししていけば良い突き方になります。突き方が変わるだけでもより楽しくなるのは間違いありません。

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和6年4月~6月分)

申込み開始 支部友会員は山行日の3か月前から、
優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、
山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを
受け付けます。締め切りは山行日の1か月前。

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX : 052-832-3878
メール : onoe@onoe.co.jp
金谷 正起 携帯 : 090-9931-3600
メール : kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
榊 将美 携帯 : 090-7237-4410
メール : m.sakaki@minds-consulting.jp
村瀬 恭平 携帯 : 090-4186-9876
メール : hoshizakari@docomo.ne.jp
田中 進 携帯 : 090-9191-8666
メール : t-susumu@peace.ocn.ne.jp
今津 英一朗 携帯 : 090-2616-7549
メール : imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
磯部 隆 携帯 : 090-9180-7245
メール : takass@yk.commufa.jp
高松 信治 携帯 : 090-3156-5268
メール : takama2nobu3@yk.commufa.jp
近藤 政仁 携帯 : 090-2183-8125
メール : vft55ud55@gmail.com
倉橋 智司 携帯 : 090-8673-7180
メール : ilyt6by8@qc.commufa.jp
奥野 明美 携帯 090-9923-4292
メール : tac-okuno@mbi.nifty.com
池戸 美恵 携帯 : 090-1294-0415
メール : noboruonna@icloud.com
川崎 禎明 携帯 : 090-2131-7695
メール : y.kawa715@gmail.com
久野 輝美 携帯 : 090-7575-4521
メール : kuno4895@hotmail.com
林 康太郎 携帯 : 090-2949-0544
メール : koutaropippi@gmail.com

4月6日(土) ☆
山域 : 渥美半島 山名 : 大山・雨乞山
リーダー : 田中 進

4月7日(日) ☆☆
山域 : 各務原市 山名 : 城山・明王山・

八木山 リーダー : 磯部 隆

4月13日(土) ☆
山域 : 京都東山 山名 : 大文字山
リーダー : 村瀬 恭平

4月13日(土) ☆☆
山域 : 奥三河 山名 : 湯谷富士
リーダー : 林 康太郎

4月14日(日) ☆☆
山域 : 鈴鹿山脈 山名 : 竜ヶ岳
リーダー : 今津 英一朗

4月20日(土) ☆☆
山域 : 木曾谷・木曾山地 山名 : 風越山
リーダー : 高松 信治

5月1日(月) ☆
山域 : 伊那山地 山名 : 戸倉山
リーダー : 川崎 禎明

5月11日(土) ☆
山域 : 飛騨木曾川公園 山名 : 継鹿尾山・
鳩吹山 リーダー : 村瀬 恭平

5月11日(土) ☆☆
山域 : 奥三河 山名 : 岩古谷山
リーダー : 林 康太郎

5月18日(土) ☆
山域 : 名張市 山名 : 赤目48滝・長坂山
リーダー : 田中 進

5月26日(日) ☆☆
山域 : 越美山地 山名 : 三周ヶ岳
リーダー : 今津 英一朗

5月26日(日) ☆☆
山域 : 福井県 山名 : 荒島岳
リーダー : 近藤 政仁 雨天 : 中止

6月1・2日(土・日) ☆
山域 : 中国山地中部 山名 : 伯耆大山(弥山)
リーダー : 川崎 禎明

6月8・9日(土・日) ☆
山域 : 北八ヶ岳 山名 : 北横岳・縞枯山・
茶臼山 リーダー : 村瀬 恭平

6月8日(土) ☆☆
山域 : 木曾谷 山名 : 南木曾岳
リーダー : 林 康太郎

6月16日(日)☆☆

山城：奥美濃 山名：銚子ヶ峰

リーダー：高松 信治

6月22・23日(土・日)☆☆

山城：中央アルプス

山名：木曾駒ヶ岳・宝剣岳

リーダー：磯部 隆

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

「予定」第62回 2月13日(火)
支部ルーム 19:00~20:30
テーマ：「鈴鹿の最新山岳遭難の現状」
講師：小古 真也 氏(日本山岳会東海支部員)
.....
支部友会員数 令和5年11月現在 66名
.....

同好会コーナー

スケッチクラブ 会員の広場

《第9回作品展》 村中 征也

スケッチクラブは11年目を迎え、集大成である作品展は9回目となりました。

10月11日(水)~15日(日)の5日間、名古屋市の市政資料館で、山の絵・スケッチ旅・静物など、31点を展示出来ました。

大勢の来展客を迎え、東海支部からは、高橋支部長始め大勢の方に来て頂き、絵を前にした山談義を楽しめました。支部長からは、「山の楽しみ方の大切な活動」とお褒めの言葉を頂き、励みになりました。漸くコロナ禍の禁も解け、好天と相まってスムーズに運営出来、マスクなしでの交流が、何よりも有難く感じました。



作品飾付後の交流

スケッチクラブは、登山を通じた活動の場を広げます。興味をお持ちの方は、是非お声掛けして下さい。

代表…石井仁

事務局…村中征也・岩田智与子

《スケッチ旅行》 〈東谷山〉

9月30日(土) 福井 雅子

当日は暑い日だったので、日影を選んで描き始めたんですが、日差しに追っかけられ場所替えしたら、皆さんも同じ場所です!

お腹が空いていたので、名物のマスカットパフェを頼もうと思ったら1,800円! 私の勿体ない? 精神が勝り、頼めず残念でした。

絵を描いている時は、何も考えずに夢中になれリフレッシュ出来ます。これからも楽しく参加したいと思います。

〈木曾路&伊那路スケッチ・撮影ツアー〉

10月29日(日)~30日(月) 浅井 富士子

御岳休暇村が実施するツアーに6名で参加、私は初体験でした。

初日は木曾義仲館へ。施設は新しく殺風景でスケッチ対象になりにくかったが、近くの徳音寺や池でスケッチ。

2日目は伊那谷へ回り、駒ヶ根高原の菅の台へ。駒ヶ池周辺からは宝剣岳を中心とした中央アルプスが、太田切川周辺からは甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳始め南アルプスの山並みが雲一つなく眺められる良い場所でした。

春日公園は伊那の春日城址のある高台で、鋸岳、甲斐駒、仙丈、間ノ岳、塩見岳…と南アルプスの峰々の大展望の場所でした。

宿泊は休暇村で、移動も休暇村のバスで。食事時間や場所を考える必要もない弁当付き、スケッチタイムの各2時間も適当と思われ、値段もお値打ち感ありで良かったです。

いつものスケッチ旅行同様に初日は宿で、2日目はツアー解散後木曾福島駅で、作品を披露しあって反省会を実施。人により目線や狙いが異なって、とても有効だと思います。

今回は快晴に恵まれたことで、山並みが雲に隠れることなく、心行くまで秋をスケッチ出来、良い旅となりました。

会 務 報 告

【2023年9月常務委員会】

日時：9月27日(水) 於・支部ルーム+ZOOM

1、支部長挨拶

*二つの命題としての財政健全化・支部活性化に向かって進めてきている。次年度のビジョンを考える時期が来ているので、次回の常務委員会では、各委員会は次年度のビジョン示してほしい。問題点・課題点があれば、常務委員会にて共有し検討をしていきたい。

*ゴザフェスは全国より50名程度、支部より10名、学生20名程が参加し大盛況のうちに終わることができた。今後もこのような交流を図る場が広がればと思っている。

委員会報告・審議事項

2、総務委員会(今津)

①支部員9月度入退会 入会2 退会1
総数 340

②ヤマトシプロジェクト寄付金 中間報告 2名より寄付有り。

③新年会 2024年1月14日(日) OMC4階講堂
講演予定 草野氏・實川氏(予定)

④ユース交流会実施予定 11月3日~5日
ユース委員長 松原氏提案
・岐阜県高木山にてクライミング及び講習・他
宿泊：犬山桃太郎公園キャンプ場
青年部・アルパインクラブ・学生連盟が主に参加予定

懇親会(夜)・手伝い、等参加募集 → 詳細が決まり次第メルマガ発信

⑤若年支部員入会について 13歳入会希望者保護者と面談の上決定する(高橋・今津)
今回、未成年を理由に入会制限はしない。

3、山岳連盟(鈴木欠 代理星)

①一般社団法人愛知県山岳・スポーツクライミング連盟 が設立準備。10月新組織の予定。

4、支部友委員会(金谷)

①7・8月の山行は無事終了

②来月の朝明ミーティングについて
参加者 支部友会員14名 登山学校23名 支部友委員十数名 合計：約60名弱予定

③会員数 入会1 退会1 総数64

5、山行委員会(稲葉)

①山行は順調に行われている。

②12月3日(日)の忘年山行につて
高橋支部長をリーダーとして、アルパインクラ

ブ・支部友・トレッキングクラブ

山行委員会合同企画 金華山を計画中(詳細は決まり次第連絡します。)

③支部山行HPのFAQの見直しを行い、「山行委員に聞く」を問い合わせフォームより行うよう変更(山行について以外の問い合わせが多い)

6、亀の会(村瀬)

①実施山行と今後の予定は配布資料通り

②亀の会積立金⇒内部留保とせず年度内で出来るだけ使い切る方向で。

③大亀の会については現状に即して考えていく。

④会員数 入会0 退会2 総数52

7、猿投の森づくりの会(和田)

①森づくりの意義を勉強しようと勉強会が続いている。森林が二酸化炭素の吸収と炭素の蓄積という地球温暖化抑制に大きな役割を果たしていること、森林を健全な状態で維持することが大切という説明は会員の活動の励みとなった。⇒若手の育成をお願いしたい。

8、東海学生山岳連盟(鯉江) 資料通り

ゴザフェスにおいて学生に指示を出せる経験者がいなかった為協力態勢がなくお客様になってしまっていた。(今後の反省とする。)

9、アルパインクラブ(高橋) 資料通り

10、登山学校(服田)

①カリキュラムは順調に進んでいる。

②「登山の基礎知識」の講座を行ったが、今年度の受講者は昨年度と比べて意識が高く熱心だと感じた。今後に期待したい。

11、遭難対策委員会(高松) 資料通り

12、技術向上委員会(清水)

①講習会案内 11月19日(日) 支部ルーム 15:00~16:30 三浦 裕 Dr

「安全登山の基本一体調管理法を身につける」・救援要請のタイミング等
各委員会におかれては、登山の基本として参加の呼びかけをお願いしたい。

13、支部報委員会(星)

①支部報は印刷中で29日納品予定 部数500 発送9月29日

14、図書委員会(石田)

①蔵書紹介を支部報に掲載しているが実質1人でしている。来年に向けて後継者を探したい。

15、古道調査(西山) 本部にてHPに掲載すべ

く入力進行中

出席者：高橋 今津 前田 星 金谷 稲葉
村瀬 和田 服田 鯉江 高松 井上 石田
千葉 清水 西山

【2023年10月常務委員会】

日時：10月25日(水) 於・支部ルーム+ZOOM

1、支部長挨拶

・先日、朝明ミーティングが盛大に行われて良かった。

・スケッチクラブ展示は、名古屋市市政博物館5日間で総費用2万円コスパもよく、写真展もそういった所があればいい。

・各委員会では次年度の目的と財政健全化・支部活性化について、ご意見をいただき、しっかりもんで次年度に向けてやっていきたい。

委員会報告・審議事項

2、総務委員会（今津）

①新年会 2024年1月14日(日) OMC4階講堂

②ユース交流会実施予定 11月3日～5日 ユース委員長 松原氏提案

・宿泊：犬山桃太郎公園キャンプ場 3日、4日バーベキューぜひ参加してほしい。

・学生連盟ほか約30名が参加予定

3、支部友委員会（金谷）

①朝明ミーティングに多数参加頂き、感謝。

②12月に忘年会を登山学校と合同で実施する。

③来年度委員会方針

・山を愛する新しく初級者を対象に楽しい団体活動するかが目的。

・今は、初級者から百名山を目指す人など力量がさまざま、平均的に山へ行くのは苦労している。

・何とか歩留まりを良くして、支部員になっていただきたいと思っている。

・朝明ミーティング、忘年会は有効である。

支部長より、支部友制度を使って各委員会も新入会員の獲得をしていただくと良い。

4、山行委員会（稲葉）

①12月3日(日)の忘年山行について高橋支部長をリーダーとして、アルパインクラブ・支部友・トレッキングクラブ・山行委員会合同開催都合が付く方はぜひ参加いただきたい。

②来年度委員会方針

・支部員になっていただいた方、支部を楽しんでいただくために山行を提供する。

・支部山行を通じスキルアップと仲間づくりをして、自立した登山者を育成する。

・期待される山行が違い、如何に山行バリエー

ションをそろえるかが一番の課題。

・かつ、山行実施リーダーの育成も課題。

・支部活性化として、支部長、常務委員会の皆さんには是非支部山行のリーダーとして支部山行企画をお願いしたい。

5、猿投の森づくりの会（和田）

①森の陶土を精製し、森の間伐材などを使ってなごや環境大学講座「土器を作ろう」が行われた。

②来年度委員会方針

・森林整備、自然環境の保全を行うとともに会員相互の交流や啓発を通じて自然保護の向上と普及を図る。

・活動費は、支部からの資金支援はいただかなくても助成金や会費で活動できている。

・課題は、後継者がいないことである。

6、トレッキングクラブ（服田） 資料通り

①11月定例山行 支部員登山学校の方 1名参加

②12月23日 猿投山山行 午後「森づくりの会」納会に参加

③来年度委員会方針

・ミッションは、ザイル使用を前提としない支部員の受け皿。リーダー、サブリーダーとしての経験を積む場の二つが果たす使命と役割。

・方針は、メンバー全員が輪番制で山行計画を立ててリーダーを務める。(月1回)

・活動は、月1回定例山行と随時指導員3人の企画山行。他

・支部活性化は、他の委員会との合同山行の企画。

支部長より、年齢制限を撤廃してはどうか、将来の検討事項とする。

8、支部報委員会（星）

①支部報176号は、2024年1月1日発行 原稿締切日11月末

②ユースの記事を優先的に掲載。

④来年度委員会方針は変わらない。

・次年度希望予算は、活動にともない希望。

・印刷費は、昨年度から半減した予算で500できており継続していきたい。

・支部報の広告枠は空いており、支部長と副支部長が石井スポーツへ広告掲載依頼。

データ化は今回の常務委員会で議論することとなった。

9、アルパインクラブ（高橋） 資料通り

①現在会員26名 着実に増加、女性が多い。

②活動としては、夏の山行は一通り終わり。着

実にクライマーが増えてきている。

③年齢層は、20代と50代が主である。

④来年度委員会方針

- ・アルパインクラブの使命目的は、ロープワークができる「創始の志」目指してスポーツとしての登山を衰退させることなく、積極的なアルパインクライミングを志す集団を目指します。
- ・方針は、ロープを使用した登攀行為全般（岩登り、フリークライミング、沢登り、アイスクライミング、トレラン）をトレーニングとして行う。
- ・バリエーションルートへの挑戦を積極的に行う集団にしていきたい。
- ・現在会員数は26名、二年度には50名を目指す。
- ・目的の明確化によるコアな会員の獲得、遭難救助の出来る実力部隊の編成をして貢献、ロープワーク、体験クライミングなど支部の方にしていただき貢献する。
- ・青年部が休眠状態でもあり、青年部との融合による組織のスリム化を行う。
- ・学生山岳連盟からの卒業生の受け皿の役割。

10、東海学生山岳連盟（鯉江）

①活動は、資料通り

②来年度委員会方針

- ・学生山岳連盟ということで、学生山岳クラブの交流場となる。
- ・情報交換や技術共有を行い、各々の活動の糧とする。
- ・支部との交流を通じて、登山活動に必要な技術を学ぶ。
- ・方針は、ゴザフェスを軸に活動していく。

支部長より、支部との交流ができると良い。ボランティア委員会での活動には一部参加されている。今後も見守り、サポートしていく。

11、登山学校（服田）

①カリキュラムは、順調に進んでいる。

②来年度委員会方針

- ・公益法人として、自立した登山者と次世代の支部を担う人材の育成がミッション。
- ・方針は、開校が最大の目標、体制は1クラス6名とする。
- ・活動は、現地講習山行（月1回）、机上講習（年6～8講座）。
- ・予算は、10万円（装備修理代、机上講習講師代2万円×2回、受講生交通費補助などに使用）
- ・活性化は、支部活性化につながる人材の輩出。
- ・財政健全化は、収入面は受講料の値上げ、入

学金の徴収（実施するかは検討が必要）

- ・支出面は、机上講習回数の見直し。

支部長より、お金のかからない気象講座、夏山向けに3月4月に講座を開催することも支部友委員会とともに検討していく。

12、ボランティア委員会（前田）

①10月20日猿投山での試験観察中などの登山実施、10月29日から11月11日登山予定。

②来年度委員会方針

- ・ミッションは、ダイバーシティ社会の実現に、登山を通して寄与する。
- ・健常者も障がい者と一緒に、山を楽しんで行きたい。
- ・公益社団法人として求められる、公共的な事業活動の一翼を担う。
- ・方針は、登山弱者との登山、登山の教育的側面の実践、登山以外の障害者支援活動への参加。
- ・予算は、1万円（ボランティア行事保険、参加学生交通費）
- ・財政健全化は、現在の年間予算制からその都度の精算に変更する。
- ・支部活性化は、支部活動として積極的に参加する。

13、遭難対策委員会（高松）

①来年度委員会方針

- ・ミッションは、登山計画書の作成、提出率のさらなる向上を目指す。
- ・登山行程上のリスク先読み技術の向上を目指す。
- ・委員各自の総合力レベルアップを図り、遭難防止活動に取り組んでいく。
- ・活動の一部、三重県警の山岳警備隊NEWSを遭難対策委員会のHPを通じて周知を図る。
- ・予算は、5万円（小冊子作成3万円など）
- ・活性化は、関連委員会との連携し講習会実施。
- ・財政健全化は、講座案内は印刷物からメルマガおよびHPによるPDF表示とする。

14、写真展実行委員会（岩月）

①委員会議事は、資料通り

・撮影山行は、11月23日 清滝山（メルマガにて募集）2024年2月20日～21日王ヶ頭。

②来年度委員会方針

- ・ミッションは、東海岳人写真展の開催。
- ・方針は、写真に出演者の山に対する思い等のコメントを記載する。
- ・「私の思い出の一枚」などのコーナーを設ける。
- ・予算は、出展者を増やすためにも会場費、講

師謝礼金等を希望。

・活性化は、写真展開催の広報活動の強化。写真山行の開催。

支部長より、市政資料館の利用など効果の出る工夫を要望あり。

15、デジタルメディア（井上）

①活動報告は、特になし

②来年度委員会方針

- ・ミッションは、記載の通り。
- ・方針は、支部ホームページのリニューアル。
- ・新しい委員の方に、各委員会から人を出していただき検討作成してほしい。
- ・メルマガ登録者数が、支部友および支部会員の約60%であることは課題である。

16、技術向上委員会（清水）

①活動報告

・11月19日「安全登山の基本-体調管理法を身につける」講習会、現在12名参加予定。メルマガに記載予定。

②来年度委員会方針

- ・ミッションは、技術向上による安全登山の推進。雪山に親しむ機会の創出。
- ・方針は、安全登山に関する啓発活動の実施と山を知り山を楽しむための行事の実施。
- ・活動は、トラブルを防止する登山計画の立て方の講習会実施。
- ・希望予算は、今年度と同じ。
- ・活性化は、魅力ある行事を通じて安全登山に係る啓発を行うとともに、より広い視野で山と親しむきっかけを作ること。
- ・財政健全化は、行事チラシ印刷費の低減と講師の選定など。

17、古道調査（西山）

支部長より、熊野古道調査に関する情報を紙面にて出してほしいとの要請があり。

出席者：高橋 今津 前田 星 金谷 稲葉 和田 服田 鯉江 高松 井上 清水 西山 岩月 奥山

【2023年11月常務委員会】

日時：11月22日(水)19時(ZOOMと並行開催)

1. 支部長挨拶（高橋）

・11月3日～5日ユース交流会、犬山高木山で2泊。35名ほど多くの人が集まりクライミングをした。

2. 総務委員会（今津）

- ・12月27日(水)19時から常務委員会 19時30分から懇親会
- ・年次晚餐会 14名参加予定

・1月14日(日)16時30分から新年会。当日、支部友、登山学校からお手伝いをお願いしたい。

・親子で入会された方がいた。親子での入会時の会費は夫婦会員と同様にいずれか1名の年会費を減額し、年額2,000円とする。支部からの文書配布はいずれか1名とする。来年の総会で規約の変更とする。

・古道調査イベント2024年5月18日～19日、日程の確保をお願いしたい。宿泊はホテル浦島。各支部が割り当てられたコースの山を登って懇親会に参加する。参加費25,000円+交通費。前泊は+15,000円。

3. 愛知山岳連盟（鈴木絵美子欠席、代理今津）

・積雪期登山基礎講習会開催する。参加者の費用は支部から一部補填し伝達講習を3か月以内に実施する。

4. 支部友委員会（金谷）

・10月の朝明ミーティング残金は支部に戻す。

5. 山行委員会（稲葉）

・12月3日(日)忘年会山行30名予定。

6 猿投の森づくり（和田）

・11月はイベントが多かった。なごや環境大学、せと環境塾、幼稚園児が参加した【森の探検隊】は崖上り丸太橋渡りなど冒険要素が喜ばれた。

・11月25日(土)法人デー、あいおい損保など35名を越える参加で伐採の体験などした。

・12月23日(土)納会&餅つき参加者募集。

7トレッキングクラブ（服田）

・12月23日猿投の森づくりの納会に参加。

・オープン山行1月27日?28日、オハイ。費用15,000円。支部友会員も参加可能。

8 東海支部報（星）

・11月末原稿提出お願いします。12月26日発送予定。

9 アルパインクラブ（高橋）

- ・会員28名、信濃支部から1名参加。
- ・11月3日～5日全国ユース交流会（高木山）支部から12名。
- ・11月25日～26日剣を予定していたが天候不良のため中止。
- ・12月3日金華山、午前トレラン9名、午後トレッキングクラブ、山行委員交流登山、忘年会（自然保護委員会と合同）
- ・青年部との統合していく。

10 登山学校（服田）

・11月26日(日)机上講習午前【装備・冬山編】支部友、遭難対策委員会と合同開催 午後【読

図】

- ・朝明ミーティング総括
- ・登山学校同窓会 11月18日～19日ふもとつばらキャンプ場

- ・支部友、登山学校合同忘年会 12月2日

11 自然保護委員会 (石原)

- ・第2木曜日が例会。
- ・来年は乗鞍南斜面の高山植物、雷鳥を見る体験などしていく。
- ・猿投山のモニター1000のカメラ3台を冬ごもりのため11月初めにカメラを外す。
- ・前委員長が5年分の報告を希望されている。
- ・アルパインクラブと合同忘年会。

12 ボランティア委員会 (前田)

- ・秋のイベントは無事終了。
- ・12月19日(火)ルームで忘年会。
- ・ビン、缶は各自で持ち帰ること。支部友委員会はセブンイレブンで購入すると空き缶空き瓶は回収してもらえる(今津)

13 遭難対策委員会 (高松)

- ・リスクチェック訓練【座学】11月10日(金)地形図からリスクを予測する。【確認登山】11月12日(日)庵座谷。案内はメルマガとホームページで周知した。
- ・12月10日救助訓練、青川峡キャンピングパーク

14 デジタルメディア委員会

- ・2月にサーバー環境が変更される。
- ・メルマガ読者が少ない。

15 技術向上委員会 (清水)

- ・11月19日(日)【安全登山の基本-体調管理を身につける】委員含め20名参加。詳細はホームページに掲載。
- こむら返り対策、登前にストレッチ(アキレス腱をのばす)芍薬甘草湯の服用はお勧めしない。サプリメントはカリウム補給にバナナチップ、干し柿。ビタミンC欠乏すると疲労、倦怠感を感じやすくなる。登山で筋肉組織の細かな損傷が蓄積するが、創傷治癒効果が期待できるのでビタミンCを大量摂取すべき。
- ・3月23日イグルー講習、法政大学ヒュッテの近く 講師は米山悟氏
- ・3月24日雪崩対策講習 講師は杉原和樹氏

16 古道調査 (高橋、今津、西山)

- ・奥駈4コースのうち東海支部は大峯奥駈の南部か北部を担当。プロジェクトを作って事前調査をする。3月、4月に山行実施。南部だけで2泊3日か3泊4日途中水がない。技術向

上委員会の清水さんが南北歩いた時の記録がブログにある。

17. 支部の活性化について

ホームページの活用が必要。写真展の写真をホームページに掲載してはどうか。インスタのフォロワーが800人。情報をもらうことができればホームページに載せる。(井上)

18. 経費節減について (今津)

ガイドブックの印刷をやめたことで経費節減した。支部報の印刷が減額できた。

寄付を募る。

常務委員会の印刷資料は審議事項のみ用意して報告事項の印刷資料については無くしていく。

19. インドヒマラヤ (星) メラック峰について

昨年のリベンジで計画する予定。

常任委員会の出欠をLINEを利用して日程調整、緊急時の連絡に利用してはどうかと意見があった。

新年会終了後倉庫の整理をする。(高橋)

(参加者) 高橋、今津、服田、前田、高松、西山、和田、井上、石原、(ZOOM) 稲葉、星、清水、金谷、千葉

ル ー ム 日 誌

—・— 9月 —・—	
	大会議室 /小会議
1(金)	/古道塩の道
3(日)	トレッキングクラブ
4(月)	支部友委員会
5(火)	県岳連 /TNCC
6(水)	/青年部
7(木)	写真展実行委員会
9(土)	登山学校机上講習会
11(月)	登山学校運営委員会
13(水)	山行委員会
14(木)	自然保護委員会/アルパインクラブ
18(月)	図書委員会・読図会
19(火)	ボランティア委員会
20(水)	東学連 /技術向上委員会
21(木)	正副支部長会議 /総務委員会
22(金)	亀の会
25(月)	支部友読図会
26(火)	遭難対策委員会
27(水)	常務委員会
—・— 10月 —・—	
1(日)	登山学校机上講習会
2(月)	支部友委員会
3(火)	県岳連 /TNCC

- 4 (水) 青年部
- 5 (木) 写真展実行委員会
- 6 (金) /古道塩の道
- 10(火) 登山学校運営委員
- 11(水) 山行委員会
- 12(木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 14(土) 朝明ミーティング
- 15(日) 朝明ミーティング
- 16(月) 図書委員会・読図
- 17(火) ボランティア委員
- 18(水) 東学連 /技術向上委員会
- 19(木) 正副支部長会議 /総務委員会
- 20(金) 亀の会
- 23(月) /支部友読図会
- 25(水) 常務委員会
- 31(火) 遭難対策委員会

— — — 11月 — — — — — — — — — —

- 1 (水) 青年部
- 2 (木) 写真展実行委員会
- 3 (金) 古道塩の道
- 6 (月) 支部友委員会

- 7 (火) 県岳連 /TNCC
- 8 (水) 山行委員会
- 9 (木) 自然保護委員会/アルパインクラブ
- 10(金) 遭難対策委員会 /亀の会
- 13(月) 登山学校運営委員会
- 15(水) 東学連 /技術向上委員会 亀の会
- 16(木) 正副支部長会議 /総務委員会
- 19(日) 技術向上委員会講習
- 20(月) 図書委員会・読図会
- 21(火) ボランティア委員会
- 22(水) 常務委員会
- 24(金) 亀の会
- 26(日) 登山学校机上講習
- 27(月) 支部友読図会
- 28(火) 遭難対策委員会

会員異動

- 入会：**岡村隆徳(17152) 蒲谷和幸(17153)
 立野里織(15764) 萩原侑紀(17189)
 萩原大輔(17188) 大槻峻介
退会：杉浦勝美(16324) 杉浦妙子(16827)
 王 思(16940) 志賀 傳(13273)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

支部新年会は以下のように開催します。
 日時：2024年1月14日（日）午後4時受付開始
 場所：OMCビル4階講堂
 中区富士見町8-8
 第1部 報告会 4時40分～
 ・草野駿希氏 北アルプス一筆報告
 記念講演会 5時～
 ・實川欣伸氏 富士山2230回登頂
 ～富士山に生かされ、生きる人生～
 第2部 懇親会 5時45分～19時15分
 詳細は東海支部HPをご覧ください。

総務委員会 今津英一朗

【技術向上委員会からのお知らせ】

イグルー講習会+雪崩対策講習会
 日時：2024年3月23日（土）～24日（日）
 場所：五竜岳遠見尾根 地蔵の頭周辺
 対象者：①冬山一般をある程度経験し、アイゼン、ピッケルの装備も使っている人
 ②学生などでこれから冬山に親しみたい人
 注：経験・体力などを伺い、一定のセレクトをさせていただきます。
 内容：イグルー講習会（3月23日に講習、制

作したイグルーで宿泊）
 講師：米山 悟氏
 雪崩対策講習会(24日)（雪崩発生メカニズム・雪崩に巻き込まれない対策）
 雪崩発生時救急用のスコップ・ビーコン・ブルーブ（ゾンデ）の使用手法等
 講師：杉原一樹
 連絡・問い合わせは、清水までメールでお知らせください。
 メールアドレス：simizu@ogaki-tv.ne.jp
技術向上委員長 清水克宏

編集後記

明けましておめでとうございます。今号もご覧の通り多くの支部員・支部友の活動を掲載できました。編集担当として感謝の念でいっぱいです。
 去年は「地球沸騰化」や有機化合物「PFAS」の話題が広がりました。また、奥山から里山と活動の範囲を広げる動物との遭遇など、ますます自然環境や生態系の変化が顕著になって来たようです。身近な山歩きにも自然環境の変化を見逃さないようにしたい。
支部報編集委員会 星 一男

SINCE 1975
mont-bell
 FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



☎ 0088-22-0031 📞 伊電話 06-6536-5740
 株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます
 遺言書、遺産分割協議書、
 法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
 名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004 **久屋大通駅 徒歩1分**
www.nygs-office.com

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

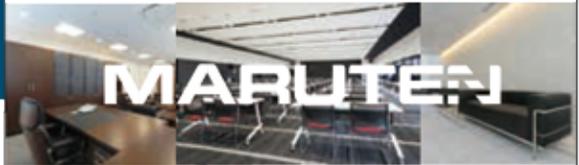
(有) 富士見企画

〒460-0014
 名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
 デザイン、インテリアやセキュリティなど
 オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえってお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
 お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
 TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有)アジマプリント

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地
 TEL(052) 901-1256
 FAX(052) 901-2278
 E-mail : ajimaprint@giga.ocn.ne.jp